～21世紀・生きがい講座～ 新橋・航空会館で、毎月開催！

2019年1月～12月　毎月第3水曜日
午後7時～8時30分　参加費：1,000円

1/16（水）
大本と茶の湯の心 ～信仰と芸術と生活～
猪子　恒（大本東京宣教センター長）

大本では信仰と芸術の一致を解くとともに、生活の中に活かすことが大切であると教えています。茶の湯の道もその一つ。一期一会の精神で相手を敬い、自然の恵に感謝を捧げる茶の湯の精神。和敬清寂の薫り高い生活の実践をとおして、真の信仰生活を目指します。

2/20（水）
心を育てる4つの力 ～感謝祈願詞に学ぶ人生の歩き方～
橋本伸作（大本東京宣教センター次長）

私たちの心には、勇・親・愛・智の4つのたましいの働きが存在します。自分自身の心の働きを静かに省みて、精神の向上をはかりたいもの。大本で奏上する祝詞「感謝祈願詞（みやびのことば）」に学びながら、4つのたましいの働きについて触れてみたいと思います。

3/20（水）
葬祭と祖先供養 ～みたままつりの大切さ～
椎野恭三（大本東京宣教センター総務管理課長）

家族葬、直葬、自然葬など、近年さまざまな葬儀の形が増えてきました。葬祭は単なる肉親との別れの儀式ではなく、たましいが安らかに「あの世」（霊界）へと旅立たれ、向上されますようにと祈る子孫の大切な務めです。大本の死生観に触れながら、祖先供養について学びます。

4/17（水）
人生に大切な4つの原理 ～大本四大主義の実践～
柿崎哲男（大本東京宣教センター愛善宣教課主任）

四大主義とは、清潔、楽天、進展、統一の4つの主義を示します。心身を清らかにすることで楽天的になり、さらに進展的な気持ちが生まれ、皆が心を一つにすることで、ますます発展・向上していきます。これはいつの時代も変わらぬ人生に大切な根本原理なのです。

5/15（水）
出口王仁三郎に学ぶ “日本再生”への道
藤原直哉（経済アナリスト・㈱あえるば代表取締役会長）

政治、経済、教育など、あらゆる分野で先行き不透明な現代において、明るい社会を築くことはできるのでしょうか。日本はどう進むべきなのか、私たち一人ひとりにできることとは。出口王仁三郎の教えに触れながら、経済アナリスト・藤原直哉先生に解説いただきます。

6/19（水）
1つの神・1つの世界・1つの言葉を目指して ～人類愛善会の歴史と現代～
小林龍雄（人類愛善会事業化等委員）

出口王仁三郎は、大正14(1925)年、「万教同根」を説き、「神とともに生き、働き、楽しむ愛善世界の実現は、人類の使命である」として、人類愛善会を創立しました。90年以上の歴史を経て、王仁三郎の理念は、現代に何を教えてくれるのでしょうか。

7/17（水）
生命（いのち）の重さを考える ～大本と生命倫理活動～
斉藤　泰（大本教学研鑽所事務局主幹）

明るい未来を切り開いてくれるはずの生命科学の進展が、「生命の尊厳」を脅かすようなことがあってはなりません。人は何のために生まれ、生き、死ぬのかという、永遠の生命観に基づいた科学の発展が望まれます。大本が提唱する生命倫理観について学びます。

8/21（水）
あの世を知って現代を生きる ～大本の霊界観～
田辺謙二（大本教学委員会委員）

人はなぜこの世に生まれ、生きなければならないのでしょうか。そして、いつか必ず迎える「死」。人生という旅に大きな目標があれば、その一歩一歩に大切な意味が生まれてくるはず。永遠の命を見つめながら、現代を生きるヒントを見つけてみましょう。

9/18（水）
王仁三郎の耀盌と利休の楽焼茶盌 ～耀盌顕現70年の輝き～
佐々木虚室（松楽窯主）

70年前、美術評論家・加藤義一郎氏が「耀盌」と名付け、その輝きを絶賛した王仁三郎手作りの楽焼茶盌。色彩美ゆたかな茶盌はどのようにして誕生したのでしょうか。制作に携わった佐々木松楽師の直孫・虚室先生に、耀盌誕生の経緯と魅力について語っていただきます。

10/16（水）
日本に生まれた幸せ ～今、私たちに求められているもの～
合田千華（あじあ研修株式会社代表）

日本の文化や素晴らしさについて質問されたら、皆さんはどのように答えられますか？　日本に生を受けながら、意外と日本について知らないことに気付かされます。日ごろ、アジアを中心とする多くの外国人と接する合田千華先生に、日本の魅力を語っていただきます。

11/20（水）
平和になるはこの道 ～世界連邦の実現を目指して～
谷本真邦（世界連邦運動協会執行理事・世界連邦日本国会委員会事務局次長）

昭和24(1949)年、大本が世界連邦運動を推進することを決定して70年。軍備ではなく、法的秩序によって恒久的世界平和を実現させようとする世界連邦運動とはどのようなものでしょうか。日本の国是にもなった世界連邦運動について学びます。

12/18（水）
大地の恵みに生かされて ～忘れてはいけない「お土の心」～
山田　歌（大本教学委員会委員）

私たちは大地の上に生を受け、大地の恵みに生かされ、やがて大地へと戻っていきます。大地は、生きとし生けるものすべてにとってかけがないのない存在です。大本では「お土」と敬って呼んでいます。「お土」の姿に思いを寄せるとき、私たちは多くのことを学ぶことができます。

※都合により講師・講題が変更になる場合がございます

はじまり

神代の昔、大地をお造りになった国祖・国常立尊は、神々の世界を治めておられました。

いったんは良い世界が樹立されましたが、やがて多くの神々の中に「われよし」「つよいものがち」のおごれる心が高まり、世が乱れていったのでした。

そこで国常立尊は、やむをえず神々の罪を一身に背負い、世の艮（東北の方位）に隠れてしまわれました。

それから悠久の歳月が流れ、地上の乱れは激しさを増し、国常立尊は、これ以上ほうっておいたら世界がつぶれてしまうとして、再び世にお出ましになられたのでした。

《大本開祖》
出口なお（1837～1918）

大本の開教

明治25（1892）年２月３日（節分）の夜、京都府綾部市本宮に住む出口なおという56歳の女性に、艮の金神という名で、国常立尊が“帰神”し、大本は開教しました。

国常立尊は、開祖・出口なおを通して、乱れた世の中を立替え立直して、神が理想とする万民和楽の世界「みろくの世」を建設することを宣言されました。

○

人類愛善会とは

人類愛善会は、人種、国境、宗教を問わず、志を同じくする人が相携えて世界の平和と人びとの幸せのために活動をする団体です。

大正14（1925）年、出口王仁三郎を初代総裁として創立され、現在は、出口紅５代総裁の指導のもとに日本国内はもとより、世界各国に多くの賛同者を得て活動しています。

京都府亀岡市に総本部を、東京都台東区池之端に東京本部をおき、国内に60の協議会があり、そのもとに600の分会をおいています。海外ではブラジルをはじめ、モンゴル、タイ、インド、スリランカ、ネパール、フィリピン、ナイジェリア、ホンコンなどにあります。

《人類愛善会初代総裁》
出口王仁三郎（1871～1948）

「万教同根」世界は一つ

出口王仁三郎初代総裁は、「すべての宗教の根源は一つであり、万教は同根である」と教え、「神とともに生き、働き、楽しむ愛善世界の実現は、人類の使命である」と説きました。

本会は「万教同根、世界は一つ」を旗印に、異なった諸宗教間の交流や協力活動をはじめ、世界連邦運動やエスペラント（国際共通語）の普及活動に力を入れています。

愛善世界とは、戦争のない世界をいうだけでなく、全人類が和み合い、動植物や草木にいたるまで、万物が親和する「人群万類愛善の世界」を意味します。

開催会場のご案内

航空会館 〒105-0004 東京都港区新橋 1-18-1
Tel:03-3501-1272 Fax:03-3503-1375

ＪＲ新橋駅	日比谷口（ＳＬ広場側）	徒歩５分
東京メトロ銀座線 都営地下鉄浅草線	新橋駅 ⑦出口	徒歩５分
都営地下鉄三田線	内幸町駅 Ａ２出口	徒歩30秒

参加申込・お問い合せ先

大本東京本部・東京宣教センター
人類愛善会東京本部

〒110-0008
東京都台東区池之端 2-1-44

Tel：03-3821-3701
Fax：03-3821-5283
URL http://oomoto-tokyo.com
Mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

21世紀・生きがい講座

われわれはいかなる場合においても、他を責めてはならない。自分自身を省み悟るべきである。この心がけが、この世をおだやかに美しくする基本である。

利己なければ畏れなし
畏れなければ自由自在なり

出口日出麿著「信仰覚書」より

大本・人類愛善会 東京本部